



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの 9月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.187 2022.9

紹介内容 (8/1~8/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 仙台農改：家族経営協定が締結されました
 - 石巻農改：子実用とうもろこしの絹糸抽出期生育調査を行いました
 - 気仙沼農改：クロマツ先進地視察研修会が開催されました
 - 石巻農改：プロジェクト課題の現地検討会を開催しました！
 - 仙台農改：JA仙台カメムシ防除研修会が開催されました
 - 大崎農改：大崎農業士会総会・研修会を開催しました

- ② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - 大崎農改：認定新規就農者を対象に巡回しました
 - 石巻農改：若手農業者BBQ交流会の開催
 - 仙台農改：農業大学の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました
 - 栗原農改：くりはら女性農業者キャリアアップ講座を開催しました
 - 亘理農改：農業大学校先進農業体験学習に係る事前の学生訪問を実施しました
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾 果樹農業後継者育成講座を開催しました！
 - 大河原農改：仙南4Hクラブが農作業安全研修会を開催！
 - 登米農改：令和4年度みやぎ農業「農薬の基礎知識」研修会を開催しました
 - 大崎農改：農大生が普及センターを訪問しました
 - 仙台農改：秋保温泉地に新鮮ミルクを使った酪農家直営のジェラート工房誕生！
 - 登米農改：「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました！
 - 美里農改：みやぎ農業未来塾「若手経営者経営管理講座（夏の特別講座）」を開催しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・ 6
 - 亘理農改：水田自動水管理システム WATARAS を使用したスマート農業実証試験について

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなほうれんそう部会大郷支部研修会が開催されました
 - 仙台農改：根白石果樹生産組合の現地検討会が開催されました
 - 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の出荷目揃い会が開催されました
 - 栗原農改：ズッキーニのほ場で作業姿勢調査を行いました
 - 石巻農改：JAいしのまきせり部会現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：施設なす栽培視察研修を開催しました
 - 登米農改：えだまめが旬を迎えました！
 - 栗原農改：秋植たまねぎ栽培講習会が開催されました
 - 石巻農改：いちご育苗現地検討会が開催されました
 - 仙台農改：えだまめ振興部会・研修会が開催されました
 - 大崎農改：令和4年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 登米農改：米山水稲部会追肥検討会が開催されました
 - 大河原農改：「だて正夢」地域栽培塾開催
 - 美里農改：県オリジナル酒米品種「吟のいろは」栽培研修会が開催されました
 - 石巻農改：(株)宮城リスタ大川にて水稲の勉強会を開催しました！
 - 石巻農改：水稲稲作部会現地検討会が行われました
 - 登米農改：登米市の和牛が第12回鹿児島全共に出場します！
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 登米農改：令和4年度なかだ転作部会現地検討会が開催されました
 - 気仙沼農改：「葎の華」の出穂前研修会を開催しました
 - 気仙沼農改：宮城県米づくり推進気仙沼地方本部第2回技術指導部会を開催しました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 気仙沼農改：「田表・中在地区鳥獣被害対策電気柵管理研修会」を開催しました
 - 大河原農改：柴田町特産の柚子を使用したジェラートの完成発表会が開催されました
 - 大河原農改：地域資源活用による地域特産品づくり講座の開催
 - 気仙沼農改：道の駅「大谷海岸」で大谷いもの販売会が開催されました
 - 大崎農改：H A C C P の考え方を取り入れた衛生管理記録表の作成支援しました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
 - 気仙沼農改：海洋プラスチック問題に配慮した米生産取組実証ほ中間検討会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○家族経営協定が締結されました 令和4年8月1日 仙台農業改良普及センター



令和4年7月27日(水)、仙台市内で水稻栽培と転作組合でオペレータとして活動している渡邊健司さんのお宅で、家族経営協定締結式が行われ、当普及センター所長が立会人として出席しました。

渡邊さんは昨年農業経営を継承し、毎日の作業に夢中でしたが、「家族経営協定」について知り、自分たちも取り入れてみようと考えました。

今回の家族経営協定締結により、営農や生活にかかる目標のほか、それぞれの家族の役割分担、家事・育児、プライベートの尊重などまで、幅広く明文化され、将来に向かって新たな一歩を踏み出すこととなりました。

渡邊さんは「家族経営協定は今後の営農計画や生活設計について家族と話し合いをする良いきっかけになった」と笑顔でお話をされていました。

家族経営協定とは、農業経営や生活・将来の目標について家族みんなで話し合い、意欲とやりがいを持って農業を行うためのルールです。普及センターでは、家族経営協定締結の御相談をお受けしております。

○子実用とうもろこしの絹糸抽出期生育調査を行いました 令和4年8月5日 石巻農業改良普及センター



令和4年7月27日に石巻市桃生地区において、JAいしのみきが設置している子実用とうもろこし実証ほで絹糸抽出期（絹糸状の雌しべが穂から出る時期）の生育調査を行いました。

当日は、実証ほを担当する生産者（2法人）をはじめ、東北農業研究センター（農研機構）、JAいしのみき、当所畜産振興部、農業農村整備部及び当普及センターなど関係者15人が参加しました。東北農業研究センター研究員のご指導のもと、調査項目や調査方法を確認し、草高、葉数、葉色、絹糸抽出率を測定しました。前回7月7日の生育調査では草丈が約1mでしたが、今回の調査では2ほ場平均で約2.7mと、20日間でおよそ人の背丈分が伸びていました。一部で湿害と思われる箇所が見られたものの2ほ場とも概ね順調で、雑草もよく抑えられていました。

調査後の意見交換では、虫害やかび毒への対応、収穫・調製時の水分測定方法などについて情報交換を行いました。今後は、台風や獣害などに注意しながら、生育を観察していくこととなります。次回は10月に完熟期の生育調査を行う予定です。

当普及センターでは、子実用とうもろこしの実証試験を引続き支援していきます。

○クロマツ先進地視察研修会が開催されました 令和4年8月9日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月29日から30日までの一泊二日で、枝もの用クロマツの主産地である茨城県への視察研修会が、株式会社南三陸 Pine Pro 主催で開催されました。

南三陸 Pine Pro の後藤代表取締役は、宮城県内にクロマツ生産の仲間を増やそうと、クロマツ研究会を設立し、今回の視察研修会には同研究会のメンバー6名の他、Pine Pro から2名、県関係者2名の合計10名が参加しました。

枝もの用クロマツは出荷先によって作り方が異なるので、東京市場を中心に出荷する潮来市生産者ほ場、大阪市場を中心に出荷する神栖市生産者ほ場をそれぞれ訪問しました。

関東ロームの赤土や海岸付近の砂地でそれぞれ栽培されており、Pine Pro が栽培している山の赤土と比較して有利な点、不利な点について話を伺いました。

これからクロマツ生産を増やそうという宮城では、先進地の良いところを取り入れて、問題点は改善し、宮城に合ったクロマツ生産方法を構築していこうと、後藤代表らは栽培意欲が高まった。

普及センターでは、視察先の情報を現地に落とし

込みながら、視察に参加できなかったクロマツ研究会員にも情報共有を行い、クロマツ生産の支援をしていきます。

○プロジェクト課題の現地検討会を開催しました！

令和4年8月9日

石巻農業改良普及センター



令和4年7月25日に当普及センターのプロジェクト課題で「長面地区における大規模土地利用型経営体の持続的な水田農業の実現に係る現地検討会」を開催しました。本検討会にはプロジェクトの対象である(株)宮城リスタ大川、(農)みのり、(株)ゆいっこの3法人、北上川沿岸土地改良区、JAいしのまき、東部地方振興事務所、当普及センターから合計21人が参加しました。

プロジェクトは東日本大震災による被災地域である長面地区において、堆肥施用による土づくりと、効率的な施肥技術(堆肥および速効性と緩効性肥料成分の組み合わせ)により、飼料用米の収量向上と安定が図られることを目標の一つにしており、本検討会では3つの施肥体系を検証している実証ほ場を巡回し、現在の生育状況を確認しながら、地力に応じた堆肥と化成肥料の組み合わせ等について意見交換を行いました。

当普及センターは、これからも大規模土地利用型経営体の経営安定を目指し、生産力の向上を支援していきます。

○JA仙台カメムシ防除研修会が開催されました

令和4年8月10日

仙台農業改良普及センター



令和4年7月22日に、JA仙台西部営農センターでカメムシ防除研修会が開催され、生産者8名が出席しました。

研修会では、普及センターが講師となり「水稻斑点米カメムシ類の発生状況と適期防除」と題して、県内の斑点米カメムシ類の主要種である「カスミカメムシ類」の発生状況と、今後の防除について情報提供を行いました。

参加者の中には、熱心にメモを取る姿が見受けられ、適期防除の重要性について理解されているようでした。

普及センターでは宮城米の品質向上のため、今後もJAと連携して技術的支援を行っていきます。

○大崎農業士会総会・研修会を開催しました

令和4年8月10日

大崎農業改良普及センター



宮城県では、技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターと連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

令和4年7月29日に、管内の農業士で組織する大崎農業士会が通常総会と研修会を開催しました。通常総会では、令和4年度の事業計画として、研修会の開催や農業研修生の受け入れ、指導を積極的に行うことが確認されました。

引き続き開催された研修会では、古川農業試験場の職員を講師に試験場における研究の概要と最近の成果についての講演が行われました。新型コロナウイルスの影響もあり、講演はリモート開催となりましたが、活発な質疑が交わされました。新しい研究成果は「普及に移す技術」として公開されますが、栽培・飼養技術に優れた農業士の方々により管内農業現場へ普及・拡大することが期待されます。

普及センターでは、今後も農業士の方々とともに若手農業者の育成や管内農業の発展のための活動を行っていきます。

②新たな担い手の確保・育成

○認定新規就農者を対象に巡回しました 令和4年8月1日 大崎農業改良普及センター



令和4年6月27日に、農業次世代人材投資事業(経営開始型)の交付を受けた認定新規就農者を対象とした連携しサポート巡回を大崎市と連携して行いました。

今回は畜産部門(繁殖経営・乳牛)で就農した4名を対象に巡回し、就農計画の達成状況や営農状況を確認し、問題点や今後の課題について意見交換しました。特に繁殖農家は、今後の飼料価格の高騰や子牛販売額の変動など不安要素が多く上げられました。

この困難を乗り越えるために、「自給飼料作付面積の拡大やWCSの活用を新たに開始する」など前向きな意見が聞かれました。

今後とも普及センターでは、認定新規就農者が就農計画が達成されること目指し、関係機関と連携しながら、支援していきます。

○若手農業者BBQ交流会の開催 令和4年8月2日 石巻農業改良普及センター



7月22日に石巻地区4Hクラブが主催し、若手農業者BBQ交流会が開催されました。石巻地区4Hクラブは、石巻市と東松島市等の若手農業者で構成され、農業技術の研鑽と仲間づくりを目的に、視察研修や農産物直売などの活動をしてきました。

今年は、新規クラブ員募集のチラシを作り、クラブ員が農業法人や新規就農者を訪問して勧誘し、徐々に二人が入会することになり、石巻市内の会員宅に総勢15人が集まり、新会員を歓迎するBBQ交流会を開催しました。営農や趣味など自己紹介を行い、おいしい焼き肉を囲みながら交流を深めました。

○農業大学校の学生が先進農業体験学習に先立ち普及センターを訪問しました 令和4年8月3日 仙台農業改良普及センター



この春に農業大学校へ入学した学生が、令和4年9月5日から10月7日までの33日間、県内の先進的な農家で体験学習を行います。これに先立ち、当普及センター管内で体験学習を行う学生14名が来所し、学習にあたっての注意事項や、お世話になる農家がどのような経営をしているのかについて学習しました。

学生たちは、初めのうちは緊張した様子でしたが、最後には体験学習で学びたいことや今後の学生生活や将来の就農に向けてしっかり学びたい、などの発表がありました。

体験学習は、技術的なことを学ぶだけでなく、農家の生活スタイルを学ぶことができる貴重な機会です。体験学習が終わる頃には、ひとりひとりがぐっと成長した姿が見られることを楽しみにしています。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます

宮城県農業大学校について詳しくは下記URL(アドレス)をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ:

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○くりはら女性農業者キャリアアップ講座を開催しました

令和4年8月4日
栗原農業改良普及センター



令和4年7月27日(水)、栗原市市民活動支援センターで、くりはら女性農業者キャリアアップ講座「栗原市農業女性のつどい」を開催しました。

最初に、県環境生活部食と暮らしの安全推進課の平本技術主査より、「食中毒の予防について」と題し、

食中毒の種類や、その事例、予防方法について講義をいただきました。

次に、みやぎの食を伝える会に所属する菅原美代子氏、田中佑子氏より、「見直してみよう、加工技術の基礎」と題して講話をいただきました。「みやぎの食を伝える会」は、宮城県生活改良普及員OG等で構成され、一般県民を対象にみやぎの伝統食や地産地消の大切さなどを伝えています。今回の講話では、農産加工の基礎と題し、特に塩分濃度を中心としたお話をいただきました。講話の終盤には、塩分のテイastingをして、塩分濃度の比較を行いました。

参加者からは、「改めて食品の管理には気をつけていきたい」、「目分量で漬け物を作っていたので、これからは計量して加工したい」、「昔からの文化を大事に、次の世代へ伝えたい」等の声があり、研修会を通じて、食中毒予防に向けた食品保存や調味に必要な塩分濃度など、調理の基礎について再確認することができました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じ、女性農業者の資質向上や働きやすい環境整備を支援していきます。

○農業大学校先進農業体験学習に係る事前の学生訪問を実施しました

令和4年8月4日

亘理農業改良普及センター



令和4年7月29日(金)に、亘理農業改良普及センター管内で宮城県農業大学校先進農業体験学習を受講する大学校生13名を対象に、研修先の経営体への事前訪問を実施しました。

先進農業体験学習は、宮城県農業大学校1年生のカリキュラムで、研修先の栽培技術や作業スケジュール組み立てなど大学校では学べない生きた経験できる貴重な機会です。本年度は9月5日～10月7日までの33日間の研修となります。

今回、研修先と初めて顔を合わせるようになった学生は、始めは緊張していましたが、次第に会話も弾み、研修中の注意事項などをメモしていました。研修先からは、「元気があっていいね。研修待っているよ。」と声を掛けていただきました。先進農業体験学習を通し、大学校生が大きく成長するのが楽しみです。

普及センターでは、引き続き、地域の担い手の確保・育成に努めてまいります。

○みやぎ農業未来塾 果樹農業後継者育成講座を開催しました!

令和4年8月9日

大河原農業改良普及センター



令和4年7月13日に大河原・仙台農業改良普及センター共催で「みやぎ農業未来塾～果樹農業後継者育成講座～」を開催しました。

本塾は就農5年目以内の若手果樹農業者を対象に、栽培技術の向上や農業者間の交流を深めることを目的に開催し、13名が参加しました。

当日は仙台ターミナルビル株式会社 菊地秀喜専門監から「せんだい農業園芸センター」と「JRフルーツパーク仙台あらはま」のほ場で早期成園化や省力・軽労化が図られるりんご及びなしにおけるジョイント栽培についてご説明いただきました。情報交換では講師への質疑応答の他、生育情報や栽培管理で工夫している点などの情報が出され、若手農業者間の交流が図られました。

普及センターでは、引き続き技術研鑽や交流等を通じて、若手農業者の育成に努めてまいります。

○仙南4Hクラブが農作業安全研修会を開催!

令和4年8月9日

大河原農業改良普及センター



令和4年8月1日に仙南地区農村青少年クラブ(以下、仙南4Hクラブ)が安全な農作業の励行を目的に「農作業安全研修会」を開催しました。

講師を務めたヤンマーアグリジャパン株式会社からは、農業機械による農作業事故事例をもとにご説明いただきました。農作業事故は実態が分からないために、的を射た対策が困難になりがちであるとの説明に、クラブ員も真剣な眼差しで新たな知識を吸収していました。

また、普及センターからは、宮城県内における農作

業事故の発生状況や「ヒヤリハット体験あるあるチェックアンケート」の活用方法について情報提供しました。

仙南4Hクラブ員からは、ヒヤリハット事例の情報交換などを実施したいなど、今後の展開に関する意見も出されました。

普及センターでは、引き続き農作業安全の啓発活動に取り組んで参ります。

○令和4年度みやぎ農業「農薬の基礎知識」研修会を開催しました 令和4年8月9日 登米農業改良普及センター



令和4年7月22日(金)に、みやぎ農業未来塾「農薬の基礎知識」研修会を登米合同庁舎で開催しました。当日は、新規就農者等8人が参加し、日々の農作物の栽培管理に農薬の安全使用の知識や効果的な使用方法を活用できるよう学習しました。

講師の公益社団法人みどりの安全推進協会赤山敦夫氏からは、①農薬の安全性、②農薬の適正使用、③農薬の作用メカニズムと抵抗性対策について講演いただきました。参加者の多くが現在農薬を使用している若手農業者で、懸命にメモを取り熱心に受講していました。終了後のアンケートでは、説明がわかりやすく、見やすい資料で勉強になった、毒劇物等の取り扱いについても学びたい等の意見もあり、農薬の安全使用について積極的な姿勢がうかがえました。

○農大生が普及センターを訪問しました 令和4年8月15日 大崎農業改良普及センター



宮城県農業大学校1年生が、令和4年9月5日から10月7日までの33日間、県内の先進的な農家で

体験学習を行います。この体験学習の事前準備として、当管内で体験学習を行う4名が令和4年7月29日に来所し、研修先の農家がどのような経営をしているのか、体験学習時に気を付けることなどについて学習を行いました。

また、大崎4Hクラブから、活動の紹介を行いました。クラブ員には農業大学校の卒業生もおり、自身が先進農業体験学習を行った経験を話してくれました。学生は、先輩の話に、興味深い様子で聞き入っていました。体験学習が終わる頃には、成長した姿が見られることを楽しみにしています。

普及センターでは、今後も農業大学校と連携しながら、新規就農者を含め地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

○秋保温泉地に新鮮ミルクを使った酪農家直営のジェラート工房誕生！ 令和4年8月16日 仙台農業改良普及センター



仙台市太白区にある株式会社秋保柴田牧場では、「令和3年度フードバリューチェーン構築基盤整備事業」を活用し、自家で採乳した新鮮牛乳を原料としたジェラート工房「KOMOREBI gerato」を令和4年7月8日にオープンさせました。

当牧場のある秋保地区は、仙台市中心部から近い県内有数の温泉観光地です。当牧場に対し、地元ならではの乳製品等を提供してほしいとの要望が地元飲食店や旅館・ホテル等から多く寄せられており、オープンが待ち望まれていました。

お店は、店名どおり自然豊かな木もれ日の中にあり、ロッジ風の素敵な建物です。店の周囲にはウッドチップを敷いた散策路が整備され、ジェラートを食べながら散策できるようになっています。

ジェラートはシングルカップ420円、ダブルカップ520円で販売。営業日は金・土・日・月の週4日。営業時間は10時～16時です。オープン以来、お客様が絶えることなく、大勢いらして頂き、好評を博しています。経営主の柴田耕太郎さんと香奈さん夫婦は、お客様にさらにおいしい牛乳を生産し、おいしいジェラートを提供したいと日夜研鑽に励んでいます。

普及センターでは、お二人のこれからのがんばりを応援して行きます。

○「女性農業者活躍支援研修会」を開催しました！
令和4年8月22日
登米農業改良普及センター



令和4年8月9日(火)に登米合同庁舎で女性農業者活躍支援研修会を開催しました。本研修会は、特定非営利活動法人とめタウンネットの足立千佳子氏を講師に迎え、管内の女性農業者自らが生産する食材を活用した創作料理を学ぶとともに、地域農業を担う女性農業者同士が意見交換を行うことを目的として開催しました。研修会には、アグリレディーズネットとめ及び登米地域生活研究グループ連絡協議会の2団体から女性農業者15人が参加しました。

当日は2団体の各会員が生産した「ピーマン」及び「こんにゃく」をメインの食材とし、講師の足立氏が考案した料理9品を紹介していただき、レシピ集を配付しました。新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から料理の実演はせず、事前に調理していただいた料理を持ち帰って試食する形となりましたが、参加者からは料理を作る上でのコツなどの質問があり、「自宅で作ってみたい」との声がありました。

普及センターでは、今後も研修会等を通じて、女性農業者を支援していきます。

○みやぎ農業未来塾「若手経営者経営管理講座(夏の特別講座)」を開催しました
令和4年8月24日
美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センターでは若手経営者の経営管理能力の向上を図るため、みやぎ農業未来塾の研修会を8月18日に開催し、5名の若手経営者が受講しました。

始めに、みやぎ農業未来塾の塾長である美里農業改良普及センター所長から、「農業界の流れ～平成から令和にかけて～」というテーマで講義を行いました。

農業機械の改良・発展や防除方法の変化により、農業生産が大きく変わったことについて説明し、今後は、みどりの食料システム戦略を柱に施策が展開されることや、自家の経営の将来を考える際、農業の今後の流れをつかむよう助言を行いました。

次に、HS経営コンサルティング株式会社代表取締役本田茂氏から、「欲しい利益から戦略的に経営計画を組み立てる！」をテーマに講義を行いました。

会計は数字を使って家族やスタッフなどの目線を揃える目的で行うといった話の後、売上高や経費を部門毎に分け、部門別収支実績を把握する手法について説明がありました。部門別収支実績を把握することにより、利益率が高い品目と利益率の低い品目が明確になり、利益率の高い品目を伸ばすことが経営改善につながる、という説明を受講者は熱心に聞き入っていました。

研修後、受講者からは、「計画を立てる重要性を改めて感じた。」「収入については部門別に管理していたが、経費は分けていないので早速取り組んでみたい。」「家族で経営を話し合う際に、数字でもって話し合いを行いたい。」「固定費が大きいため、利益が出るように経営を改善したい。」等の感想が出されました。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○水田自動水管理システム WATARAS を使用したスマート農業実証試験について

令和4年8月9日
巨理農業改良普及センター



WATA

WATARAS（ワタラス）とは、研究開発国家プロジェクトである「戦略的イノベーション創造プログラム」の「次世代農林水産業創造技術」によって、農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が中心となって開発した技術です。

給水口と排水口の施設の両方または片方に、通信機能付きの電動モーター駆動装置及び水位水温計を設置し、計測値に基づいて、遠隔操作または自動で給水・排水の制御を行うことができます。

亘理農業改良普及センター管内の亘理町で、農研機構の実証試験経験のある大規模水田経営体が、令和4年度からクボタのWATARAS24基を、約1ha区画の水田計24haの給水口に設置し、大規模水田経営の実用化試験を県農村振興課や株式会社南東北クボタと連携し実施しています。

農研機構での試験結果では、WATARASの導入メリット5つを掲げており、①労力軽減、②節水、③設定タイマー、④スケジュール化、⑤データ化としており、特に水管理に要する労働時間は97%削減、用水量は約50%減少できたとしています。

大規模水田経営体において、水の見回りは多くの時間を費やす作業で、自動給水システムは早急に普及拡大が望まれる技術です。

今後、使用者の感想などをまとめ、問題点などを検討する予定です。

普及センターでは、今後もスマート農業の普及拡大を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○JA新みやぎあさひなほうれんそう部会大郷支部研修会が開催されました

令和4年8月1日

仙台農業改良普及センター



令和4年7月20日にJA新みやぎあさひな大郷支店において、ほうれんそう部会大郷支部の研修会が開催され、部会員8名が参加しました。

研修会では、普及センターが講師となり「ほうれんそうで問題となる病害虫」と題して、従来から問題となっている病害虫の発生活態や防除対策に加え、他県等で新たに発生が確認されている病害虫について情報提供を行いました。

参加者の中には、自分の経営に参考となる情報を得ようと熱心にメモを取る姿が見受けられました。また、耕種的な防除のためにも土壌環境のチェックが必要であるということで、今後、部会として土壌分

析を実施することになりました。

普及センターでは、ほうれんそうの生産安定のため、引き続き技術的支援を行っていきます。

○根白石果樹生産組合の現地検討会が開催されました

令和4年8月4日

仙台農業改良普及センター



根白石果樹生産組合（仙台市）の現地検討会が7月29日に開催され、部会員全6名が参加しました。

当日はそれぞれのりんご園地を巡回しながら、栽培管理や病害虫の発生状況等の確認を行いました。当地域では、6月初めに降雹被害があり、園地により差はあるものの、写真○印内のように凹み等の傷のある果実があります。また、斑点落葉病の発生も例年よりやや多い状況でした。

普及センターでは、降雹害対策として適正な樹勢を維持するための摘果数の助言や今後の防除、栽培管理等について指導しました。

なお、今後も情報提供や技術指導を行い、果樹の安定生産を支援していきます。

○JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会の出荷目揃い会が開催されました

令和4年8月9日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月28日、JA新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会主催によるお盆用菊類の出荷目揃え会が開催され、生産者7名、株式会社仙花2名、JA職員2名、普及センター1名が参加しました。

当日出荷された輪ギク及び小ギクの出荷箱からサンプルを抜き取り、各々の出荷規格（花の咲き具合、病害の有無等）について、花卸会社である仙花の担当部長からアドバイスをもらいました。

旧南三陸農協時代は、共同選別を行いある程度出荷規格を維持していましたが、現在は個別選別となっています。選別は会員各々の選別眼にまかされており、出荷規格に個人差があることから、仙花担当部長からは、「個別選別は、花屋が生産者を名指しで買い取っていくので、売れる人と売れない人の差が広がってしまう。今回の目揃え会を契機にしてなるべく出荷規格を揃えてもらいたい」と助言がありました。

また、「今年のお盆用菊類は全国的に暑さや曇天の影響で遅れ気味なので、早めに出荷してもらえれば高く売ることができる」と他産地の情報や販売の見通しについて、情報提供がありました。

普及センターでは、お盆出荷で高値販売できるように、仙花からの情報を今回参加しなかった協議会員にもつないでいき、産地の販売額向上を支援します。

○ズッキーニのほ場で作業姿勢調査を行いました 令和4年8月15日 栗原農業改良普及センター



8月2日、3日に、栗原市若柳地区のグリーンな栽培体系への転換サポート事業の検証ほ場で、ズッキーニの収穫作業姿勢の調査を行いました。普及センターでは、ズッキーニ産地の生産拡大に向けて、省力化も期待される立体栽培導入による作業姿勢改善を検討しています。立体栽培を導入している生産者からは、「立ったまま作業ができるため、毎日の収穫が楽になった」、「腹白果の発生が少なく、良品率が高まった」という意見もいただいています。今回の調査は、収穫作業姿勢の改善効果をデータとして把握し、ズッキーニの立体栽培技術の普及を図るものです。

普及センターでは、今後も人と環境にやさしいズッキーニ栽培を支援していきます。

○JAいしのまきせり部会現地検討会が開催されました

令和4年8月17日
石巻農業改良普及センター



令和4年8月2日にJAいしのまきせり部会の現地検討会が開催されました。石巻市河北地区で生産されるせりは「河北せり」として、青果物では県内初のGI登録も行なわれています。

GI登録とは、長年培われた特別な生産方法等により、高い品質と評価を獲得した農林水産物・食品の産品の名称（地理的表示）を、知的財産として保護する制度です。

現地検討会には部会員12人が参加し、各ほ場を巡回しながら栽培管理、病害虫管理について検討を行いました。親ぜりほ場の生育は順調であり、病害虫及び雑草防除が適切に行われていました。

定植まであと一か月ほどあり、これからの管理について茎葉を食害するモトグロヒラタマルハキバガやウイルスを媒介するアブラムシなど、病害虫の防除を中心に助言を行ないました。

普及センターでは今後も、ほ場の巡回等を行いながら、良品質なせり生産を目指して技術指導を行っていきます。

○施設なす栽培視察研修を開催しました 令和4年8月18日 石巻農業改良普及センター



令和4年8月5日（金）に施設なすを導入して間もない農業法人や新規就農者の栽培技術向上のため、大崎市古川の施設なすほ場で、栽培視察研修を開催しました。

JA古川なす部会副部会長の成田氏を講師に、品種、仕立て、病害虫防除、肥培管理などの栽培技術について、摘心や芽かきの実演を交えて御説明いただき、情報交換を行いました。

参加者は、栽培方法を見直したり確認したりする良い機会になりました。

普及センターでは、今後もほ場の巡回等を行いながら、高品質ななす生産を目指して技術指導を行っていきます。

○えだまめが旬を迎えました！

令和4年8月19日

登米農業改良普及センター



登米地域では、昨年から大規模なえだまめ栽培が始まりました。2年目となる今年は、大雨で2～3日畑が浸水するなどの災害に見舞われましたが、えだまめは全てのほ場で力強く成長を続け、無事収穫を迎えることができました。

今年は、1年目の反省を活かして適期中耕を行うなど栽培管理を改善したことで、収量は伸びる見込みです。現在収穫されているのは「湯あがり娘」という早生の品種ですが、えだまめの収穫は晩生の「秘伝」などの品種が旬を迎える9～10月まで行われます。

普及センターでは、今後も園芸産地の拡大と活性化を支援してまいります。

○秋植たまねぎ栽培講習会が開催されました

令和4年8月24日

栗原農業改良普及センター



令和4年8月17日(水)、秋植たまねぎの栽培講習会が、JA新みやぎ志波姫支店で開催されました。栗原地域では、露地園芸振興の新たな取組として、たまねぎを導入する計画であり、この日の講習会には、法人等の生産者2名、講師として、種苗メーカー及び普及センターの担当者が出席しました。

はじめに、種苗メーカーから、たまねぎの栽培に適した畑の作り方や、各生育ステージにおける栽培管理の注意点について説明がありました。つぎに、普及センターから、病害虫の防除のポイントとして、主要

病害虫の特徴や、防除に使用できる農薬の提案を行いました。参加者は、たまねぎの栽培管理についての知識を深めたようでした。

普及センターでは、たまねぎの栽培技術向上に向けて、今後も継続して支援してまいります。

○いちご育苗現地検討会が開催されました

令和4年8月25日

石巻農業改良普及センター



JAいしのまき管内では、旧石巻地区、河南地区、矢本地区にそれぞれいちごの共販を行う部会があります。令和4年8月8日(月)～10日(水)各地区ごとに育苗現地検討会が開催されました。部会員各戸の苗の生育状況を確認し、今後の管理などについて総合検討を行いました。

今年のいちごの育苗は高温や曇雨天を繰り返す難しい条件で行われていますが、部会員の適切な管理により概ね順調に生育しています。普及センターからは、育苗後半の肥培管理、病害虫防除、定植前の本ほの準備などについて指導を行いました。

9月上中旬に本ほへ定植し、11月下旬から12月には収穫開始となるよう支援してまいります。

○えだまめ振興部会・研修会が開催されました

令和4年8月25日

仙台農業改良普及センター



令和4年8月18日に、園芸推進課主催で令和4年度第1回えだまめ振興部会・研修会が開催され、管内からは、大郷町内でえだまめを生産している法人3社が参加しました。

午前は、大郷町の「農事組合法人かすかわ」のえだまめ栽培ほ場において、えだまめコンバインによる収穫作業と収穫後の洗浄脱水作業を見学する予定でしたが、あいにくの降雨のため、機械を見学しながらメーカーによる説明を受けました。

午後からは、えだまめの一次加工を行っている大崎市鹿島台の「マルヒ食品株式会社」を視察しました。工場見学では、「ゆで加熱工程」と「剥き作業工程」を見せていただきました。

情報交換では、同社の佐藤専務より加工用えだまめに求められる品質は、粒が大きく、薄皮が薄く、剥き豆の緑色が濃く、香りが高いもの、とのお話を伺いました。

普及センターでは、プロジェクト課題として大郷町の土地利用型法人によるえだまめ生産体系の導入定着を支援していきます。

○令和4年度加美郡りんご協議会先進地視察研修会

令和4年8月29日

大崎農業改良普及センター



加美郡内のりんご生産者15名で組織する加美郡りんご協議会は、毎年研修会や先進地視察などの調査・研究活動を精力的に行っています。令和4年8月24日には、これら活動の一環として、先進地視察研修会を開催しました。

最初の視察先の岩手県農業研究センターでは、土壌中の窒素量と果実品質の関係や凍霜害発生後の管理等について、2か所目の農研機構果樹茶業研究部門盛岡研究拠点では、ほ場の視察を中心に摘葉※の程度や時期と果実品質の関係、盛岡研究拠点における最近の研究内容などのお話をいただきました。

今回の研修会には会員13名の参加がありましたが、今後の栽培管理を行う上で大変参考となる情報をいただくことができました。

普及センターでは、今後もりんごの生産振興に向け、協議会活動の支援を行っていきます。

※摘葉（てきよう）とは「葉つみ」とも言われ、果実全体に光をあて均一に着色するように日照の妨げとなる果実付近の葉を摘み取る作業。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○米山水稲部会追肥検討会が開催されました

令和4年8月2日

登米農業改良普及センター



令和4年7月12日、JAみやぎ登米米山水稲部会の追肥検討会が開催され、部会員や肥料メーカー担当者、関係機関を含めて16名が参加しました。

検討会では、部会員のほ場7か所を巡回し、茎数や葉色値の計測を行い、追肥時期や追肥量について検討しました。今年度は6月上旬の低温・寡照の影響で生育が例年より遅れていましたが、今回巡回したほ場では目標茎数が確保されており、順調に生育が進んでいました。

現地巡回後、アグリピア館において、普及センターから講評と今後の管理についての助言を行いました。

普及センターでは、今後も水稻の品質向上、安定生産に向けた支援を継続していきます。

○「だて正夢」地域栽培塾開催

令和4年8月5日

大河原農業改良普及センター



みやぎ米ブランド化戦略の取組として生産拡大を推進している「だて正夢」について、高品質、収量安定化の一助として、生育状況や今後の栽培管理について現地検討会を開催しました。角田市会場で24人、蔵王町会場で14人、合計で37人の参加がありました。

県内及び大河原管内及びだて正夢の生育状況や今後の栽培管理について説明し、参加者のにも体験してもらいながら葉耳間長の計測方法を実演し、栽培管理の参考にしていただいた。

今後も普及センターでは適期刈取りのための栽培塾開催を実施する予定です。

○県オリジナル酒米品種「吟のいろは」栽培研修会が開催されました

令和4年8月5日

美里農業改良普及センター



「吟のいろは」は県で開発した2つめの酒米品種です。大崎市松山地域は「吟のいろは」を約10ha作付けしているほか、「蔵の華」や「トヨニシキ」などの酒米も栽培している「酒米の里」です。

「吟のいろは」で醸したお酒は、柔らかくふくらみのある味わいに仕上がることから、さらなる需要が見込まれています。美里農業改良普及センターでは、安定した品質での生産ができるよう、プロジェクト課題を設定して生産者と共に生育調査を行うなど、きめ細かな支援を行っています。

今年度は全県で「吟のいろは」の栽培が広がっていることもあり、県みやぎ米推進課とともに大崎市松山地域のほ場を会場として6月末の研修会から1ヶ月後の7月26日に研修会を開催しました。生産者や関係機関等約40名が出席し、生育状況を確認しました。普及センターからは、生育調査時の幼穂長の伸長から出穂時期を予想し、追肥の可否及び作業時期の目安を提示していることなどを説明したほか、古川農業試験場からは出穂後の落水時期や積算温度に基づく刈取適期などについての情報提供を行いました。

普及センターでは、こまめに現地巡回して生育状況などを確認しながら、作業適期の情報を提供し、期待される酒米の安定生産、技術の向上支援に取り組んでいきます。

○(株)宮城リスタ大川にて水稻の勉強会を開催しました！

令和4年8月9日

石巻農業改良普及センター



当普及センターでは、J Aいしのまきの子実用とうもろこしの実証試験を引続き支援してまいります。

令和4年7月21日に当普及センター主催で水稻追肥時期の勉強会を開催しました。(株)宮城リスタ大川は約200haの面積を作付けしており、本勉強会は当普及センターのプロジェクトの一環で企画され、プロジェクトの対象法人である(株)宮城リスタ大川社員8人が参加しました。

勉強会では追肥要否の判断、幼穂形成期・減数分裂期の判断方法、水管理、病害虫防除について座学を行い、その後、ほ場において生育状況を確認し、今後の管理について話し合いました。ほ場では、実際に幼穂を採取し、幼穂長から施肥時期を判断する社員や、観察結果を元に作業について代表と話し合っている姿が見られました。

当普及センターは、これからも復旧農地の担い手への栽培支援を行ってまいります。

○水稻稲作部会現地検討会が行われました

令和4年8月17日

石巻農業改良普及センター



令和4年7月13日にJ Aいしのまき主催の水稻稲作部会現地検討会が開催され、稲作部会の会員ら11人が参加しました。検討会では、環境保全米を含む4品種(ササニシキ、だて正夢、ひとめぼれ、金のいぶき)4ほ場(矢本、河南、河北、桃生)を巡回して、草丈、茎数、葉色値や幼穂長を測定しながら、追肥の要否や出穂日について検討しました。

幼穂長の観察から既に減数分裂期を迎えており、今後平年並みに推移すれば、7月末に出穂期を迎えるほ場もありました。また、全てのほ場で葉色の低下が始まっており、基肥の肥効は消失していると考えられました。地力、生育量に応じた追肥量について検討しました。

当普及センターでは、これからもJ Aいしのまきと連携して水稻栽培の技術支援に取り組んでまいります。

○登米市の和牛が第12回鹿児島全共に出場します！

令和4年8月19日
登米農業改良普及センター



今年10月に開催される全国和牛能力共進会鹿児島大会（全共）に向け、7月8日、9日に宮城県最終選考会が開催され、登米市からは第2区（14～17ヶ月齢未満・単品区）に小野寺正人氏の「えりな号」、第4区（3産以上の産歴・繁殖雌牛群）に伊藤博幸氏の「ゆりひろ号」、小野寺正人氏の「さいぜんれつ号」、チバズファーム（株）の「かなのこ号」が見事、県代表牛に選ばれました。

全共に向けて、7月末から9月にかけて計4回、みやぎ総合家畜市場にて代表牛の集合指導会が予定されており、7月27日に第1回、8月16日に第2回の指導会が開催されました。生産者の皆さんは通常の飼養管理に加え、毎日牛体の手入れや調教に尽力し、全共での上位入賞・日本一を目指しています。指導会では互いに声を掛け合い、切磋琢磨しながら正姿勢の取り方や歩行の練習に取り組む姿がみられました。

◎時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○令和4年度なかだ転作部会現地検討会が開催されました

令和4年8月2日
登米農業改良普及センター



令和4年7月15日、JAみやぎ登米なかだ転作部会の現地検討会が開催され、部会員や関係機関を含めて22人が参加しました。

最初に（株）石ノ森農場のキュウリ栽培ハウスの視察を行い、農場代表の山内氏からキュウリの環境制御システムについて説明がありました。その後、部会員の水稻直播栽培ほ場とばれいしょほ場を巡回し、生育状況等について確認を行いました。水稻直播栽培については、雑草の発生も少なく、分けつも進み、順調に生育していました。

ばれいしょについては、栽培管理等について活発に質問が寄せられるなど、部会員の関心の高さが見受けられました。

最後に普及センターから総評と水稻の今後の管理についての助言を行いました。普及センターでは、今後も転作作物に関する栽培技術向上の支援を行ってまいります。

○「蔵の華」の出穂前研修会を開催しました

令和4年8月2日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月26日、気仙沼市廿一地区で、酒米の栽培を行う清流「蔵の華」廿一会を対象に、出穂前の研修会を行いました。

6月28日の研修会に引き続き、会員のほ場を相互に巡回し、生育状況を確認しながら、今後の管理の指標となる出穂時期を予測しました。

いずれも生育は順調で雑草発生も抑えられており、走り穂が見られるほ場もあるなど生育は良好に進んでいました。いもち病の防除・発生状況により今後の追加防除要否を判断したり、斑点米カメムシ類対策としての草刈りや薬剤散布の時期を決めたりと、適期・適切な管理に向け活発に意見が交わされました。

次回は9月上旬に収穫適期の確認を行い、さらなる多収・高品質化を目指していきます。

○宮城県米づくり推進気仙沼地方本部第 2 回技術指導部会を開催しました
令和4年8月9日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月25日、管内の稲作振興に向け、特色ある取組についてJ Aや市町担当者と現地巡回を行うとともに、本年産の水稻の多収・高品質化に向け、現在の生育と今後の管理について確認しました。

今回は、玄米食専用品種として需要が高まっている「金のいぶき」展示ほ場、プラスチックの海洋流出防止に向け活用が期待される「ペースト2段施肥田植」の現地実証ほ場、そして、管内の蔵元と契約栽培を行っている「蔵の華」ほ場を視察しました。高温や大雨など、不安定な気象の中、いずれのほ場も丁寧な管理により、順調に生育しています。また、高温により出穂も平年より早まると見込まれることから、出穂後の斑点米カメムシ類やいもち病の適期防除について確認しました。

嗜好の多様化に伴う家庭の米消費の減少やコロナ下での外食需要の減少による米価の下落、資材価格の高騰などにより稲作経営は厳しい状況に直面しており、需要に応じた米づくりが求められています。

普及センターでも、需要に応じた米づくりによる経営の持続・安定化を支援していきますので、現場の課題について随時御相談ください。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「田表・中在地区鳥獣被害対策電気柵管理研修会」を開催しました
令和4年8月3日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月26日、南三陸町歌津田表地区において、田表・中在地区鳥獣被害対策電気柵管理研修会が開催されました。田表・中在地区は今年2月に電気柵を新設しており、一般社団法人サステナビリティセンター 相澤あゆみ氏を講師に招き、電気柵の管理状況について、ほ場毎に確認しました。

講師からは、電気柵の設置高や雑草の接触による電圧低下について指摘があり、適切な設置方法について指導いただきました。

参加者は講師からのアドバイスを聞きながら、改めて鳥獣対策は手を抜けないことに感じ入り、対策がスタートしたばかりであることを実感し、気を引き締めていました。

○柴田町特産の柚子を使用したジェラートの完成発表会が開催されました
令和4年8月4日
大河原農業改良普及センター



令和4年7月6日柴田町「太陽の村」において、県内の老舗百貨店、県立宮城大学の学生そして企業が共同で開発したお中元セット「柚子ジェラート」の完成発表会が、柴田町主催で開催されました。

当ジェラートは、柴田町入間田地区の入間田農産加工組合ばばの郷が加工した柚子ペーストと角田丸森の牛乳等仙南産の原料が用いられています。

製造した数量は、すでに完売しましたが、普及センターではこれからも地域の新たな特産品産出に向けて様々な方面から支援して参ります。

○地域資源活用による地域特産品づくり講座の開催

令和4年8月5日
大河原農業改良普及センター



丸森町筆甫地区では山菜を活用した地域特産品づくりに取り組んでおり、普及センターでは2カ年にわたりわらび等の栽培技術支援を実施してきました。

本年度は山菜の加工品の試験販売を計画し、第1回目としてわらびの加工品開発について講座を開催しました。講師には、一般社団法人のみり佐々木理事をお招きし、地域の加工施設で実践的な加工方法を学びました。今後は、第2回目としてごみを活用した加工に取り組む予定です。

普及センターでは、試作販売に向けて支援を継続していくこととしています。

○道の駅「大谷海岸」で大谷いもの販売会が開催されました

令和4年8月9日

気仙沼農業改良普及センター



令和4年7月24日に道の駅「大谷海岸」において、大谷いも（ばれいしょ）の販売会が行われました。

気仙沼市大谷地区はかつてばれいしょの産地であり、昭和30年頃には東京市場でも高く評価されていました。地域では令和3年の道の駅のリニューアルに併せ、ばれいしょの復活プロジェクトに取り組んできました。大谷いもは、品種にかつて生産していた男爵薯を使い、海藻を畑に入れて育てたばれいしょです。

販売会は道の駅屋外にテントを設置して行われ、大谷いも生産者10人と道の駅のスタッフが販売にあたり、海藻を使って育てたいもであることをアピールしていました。青果のいも他、コロッケ、ふかしいもも販売し、道の駅内のファストフード店でも大谷いもを使ったジャケットポテトが販売され好評でした。大谷地区では、ばれいしょのブランド化と生産拡大に向け、関係機関と連携しながら取り組みを進めていくことにしています。

○HACCPの考え方を取り入れた衛生管理記録表の作成支援しました

令和4年8月12日

大崎農業改良普及センター



令和4年7月6日、27日両日にわたり、公衆衛生協会の技術管理官を講師に招き、加美町土産センター加工品出品者を対象に「衛生管理に関する研修会」を開催しました。

1回目の研修は、HACCPの必要性や考え方を取り入れた衛生管理について学習しました。また、加工施設を活用し、現地で確認しながら衛生管理上大切なチェックポイント等を教えてもらいました。

さらに、2回目の研修では各自が作成した工程表・危害分析表を確認しました。参加者は、工程表・危害分析表をもとに指導を受けることでHACCPの考え方を取り入れた衛生管理についての理解を深めました。

この研修をもとに漬物や惣菜など3種類の衛生管理記録表を作成しました。今後、土産センターでは、この衛生管理記録表を活用して衛生管理に努めていきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○海洋プラスチック問題に配慮した米生産取組実証ほ中間検討会が開催されました。

令和4年8月2日

気仙沼農業改良普及センター



海洋プラスチック問題に配慮した米生産の取組を推進するため、5月11日に株式会社階上生産組合がペースト肥料を利用して田植えを行った現地ほ場（30a3筆）と同組合事務所において、中間検討会が7月12日に開催されました。

これまで、省力的で肥料利用効率の高い緩効性肥料（プラスチック資材による被覆肥料）を配合した複合肥料が普及してきましたが、近年は、二段施肥することで、緩効性肥料と同様の肥料効果が得られ、環境にやさしいペースト肥料が見直されています。検討会当日は、生産組合及びJA新みやぎ、肥料メーカー、普及センターなど11人が参加し、肥料メーカーから生育調査結果が報告され、実際の生育状況を確認しながら、追肥の要否等を検討しました。

実証ほの設置は、JA新みやぎと肥料メーカーが主体ですが、今後も地域適応性確認のため関係者と連携して取り組んで行く予定です。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.187

発行日:2022年9月5日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp